

# 伏木地区における復興まちづくりの取組み

伏木地区における復興まちづくり活動として、東京科学大学（真野研究室）、富山大学（藪谷研究室）が中心となり、伏木地区の住民と一緒に「伏木のミライを考えるまちづくり懇談会」を開催。

## 【基本方針】

### ○住民主体によるまちづくり

地域住民の皆さんがまちの魅力を再認識し、自らの手でまちづくり取組むことが、まちの魅力向上、にぎわい創出に繋がる。

## 【令和7年度の目標】

### ○復興まちづくり構想の策定

方針やビジョンを共有するため、既存の地元組織を母体にまちづくりに取組むための体制を整え、9自治会を対象エリアとした「まちづくり構想」の策定を目指す。



第4回懇談会の様子

## 【令和7年度 まちづくり懇談会の活動】

第1回

R7.7~8月  
実施

### 伏木のまちを見つめなおしてみよう

住民の方々と、被害の状況や伏木地区の魅力について共有し、「伏木をどうしていきたいか」という将来像を話し合い。

第2回

R7.11月  
実施

### 伏木のまちでやってみたいこと、できそうなことを話し合おう

第1回懇談会で出た意見をもとに伏木のまちで取り組めそうなテーマを設定。参加者同士で、具体的にやってみたい活動を話し合い。

第3回

R7.12月  
実施

### 興味のあるテーマに分かれてやりたい活動と将来像を考えよう

交流の場、歴史・祭り、空き地の活用など、テーマを6つに絞り込み、実現できそうな取り組みを話し合い。

第4回

R8.2月  
実施

### まちづくり構想案について話し合おう

これまでの意見を踏まえた「まちづくり構想案」をもとに意見交換。4つの方針を立て、最終的な取りまとめに移行。

# 伏木地区における復興まちづくりの取組み（令和7年度の活動内容）

## 【第1回懇談会(R7.7~8月開催)】

液状化被害の大きかった9自治会を中心に、6回に分けて懇談会を実施。合計87名の方が参加し、伏木地区の将来像について話し合いを行った。

開催日	参加自治会	参加人数
7月23日(木)	玉川自治会	18名
7月28日(月)	湊町自治会	16名
8月4日(月)	駅前自治会 古国府中部自治会 新島自治会	14名
8月8日(金)	石坂自治会 新町自治会	12名
8月9日(土)	中道自治会 臥浦自治会	13名
	全自治会	14名
		合計87名

懇談会では、多くのまちの課題を共有するとともに、地域の資源を活用したまちづくりのアイデアもたくさん出た。これらのアイデアをもとに、第2回懇談会に向けて「**伏木の今と未来創造マップ**（右上のイラスト）」を作成。

## 【第2回懇談会(R7.11月開催)】

開催日：11月5日(水)、  
8日(土)、9日(日)

「伏木の今と未来創造マップ」をもとに、伏木のまちで実施したいことをワークショップ形式で話し合った。

伏木の今と未来創造マップ▶



（参加者から多く聞かれた意見）

- **人が集える場所**が必要。一人暮らしの高齢者が増えており、近くに集いの場があるとよい。
- **空き地の活用**策として、マルシェ開催、集合店舗、宿泊場所、子供の遊び場など、様々な活用が考えられる。
- 日常生活でも観光面でも、**移動手段が課題**。
- 伏木には**歴史と文化が豊富**にある。万葉の里、勝興寺、曳山など外部には勿論、伏木の人にも知ってほしい。
- 将来的な**伏木小学校の跡地・建物の活用**が重要。
- **クルーズ船**乗客が伏木に来てくれる仕組みづくりが必要。



- 伏木の外に住んでいる人に、復旧・復興に向けた話題が届くよう**情報発信**を積極的に。など

# 伏木地区における復興まちづくりの取組み（令和7年度の活動内容）

## 【第3回懇談会(R7.12月開催)】

第2回懇談会までの意見を踏まえて、テーマを6つに絞り込み。参加者ごとに興味のあるテーマに分かれて、今後伏木のまちで実現したい具体的な取組みについて意見交換を行った。

### 《6つのテーマ》

#### 交流の場



#### 歴史・祭り



#### 空き地の活用



#### お店と暮らし



#### 情報発信・共有



#### 観光とまち



開催日：12月13日(土)

## 【第4回懇談会(R8.2月開催)】

開催日：2月7日(土)

これまでの懇談会の意見を踏まえて、「まちづくり構想」のたたき案を作成し、参加者と意見交換を実施。



（構想のたたき案に対する主な意見）

- 自分たちで持続できそうな取組みに内容をまとめられているところが良い。
- 自分たちの復興に対する思いを共有でき、形の残せるところがよい。
- 伏木の「文化を誇る」ことについて、どの世代にもそう感じてもらえるように取組んでいく必要がある。
- 被災地だけでなく、伏木全体にまちづくりの活動を広げられる内容になれば良い。情報発信、PRが大事。
- 具体的な実施時期を設定すべき（何年計画、だれが主体的に行うか）
- 取り掛かりやすい事業をまずは実施し、協力してくれる地元の人を増やしていきたい。

⇒参加者の意見を踏まえて、最終的に「まちづくり構想」を策定。次年度以降、構想に記載した具体的な取組みを実行に移していく。

